



油脂系気門封鎖剤の 新たな作用を発見しました

タバココナジラミは、繁殖力が高く、多くの殺虫剤に対する感受性低下が確認されている難防除微小害虫です。トマト黄化葉巻病の病原ウイルス (TYLCV) を媒介するため、トマトでは深刻な被害をもたらします。

気門封鎖剤は、付着した薬液で害虫を窒息死させる薬剤です。当センターでは、油脂を主原料とする気門封鎖剤が、殺虫効果以外に忌避、産卵抑制、交尾阻害といった新たな作用を持つことを発見しました。

1. 成虫は散布した葉を忌避します



脂肪酸グリセリド
散布6日後



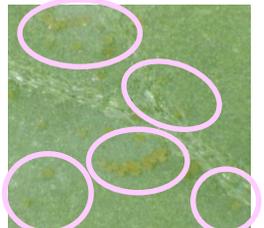
無処理

※ 白い点がタバココナジラミ成虫です

2. 産卵数が減少します



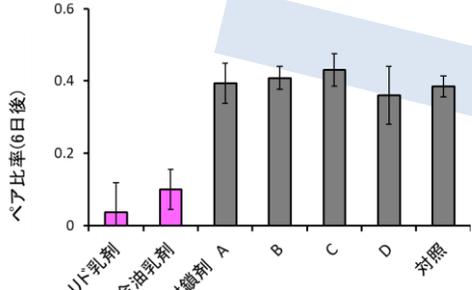
脂肪酸グリセリド
散布6日後



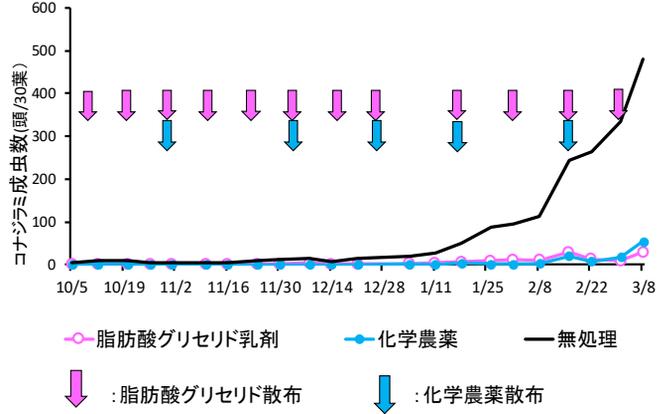
無処理

※ 円内の黄色の粒が卵です

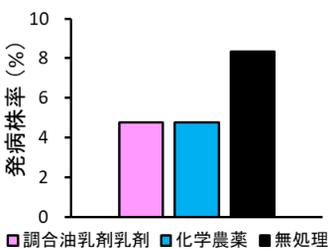
3. 交尾を阻害します



10日間隔で散布すれば、コナジラミを低密度に維持できます。



4. トマト黄化葉巻病も減少します



(研究成果)

- ・ 油脂系の気門封鎖剤 (脂肪酸グリセリド乳剤、調合油乳剤等) をトマトに散布すると、タバココナジラミ成虫が散布した葉を忌避し、産卵数が減少します。さらに交尾行動も阻害します。
- ・ 10日間隔の散布で、化学農薬と同等にコナジラミ類を少なく維持できます。
- ・ これらの気門封鎖剤は、使用回数に制限がなく、化学農薬の使用回数にカウントされないため、ぎふクリーン農業の推進に大きく寄与します。
- ・ うどんこ病や、トマトサビダニの同時防除も期待できます。